



ContentAsia's

The BIG List

directory

MALAYSIA

マレーシア

2025年7月

アジア・メディアコンテンツおよびサービス総合名鑑

この度、ContentAsia社より、同社発行「The BIG List」の日本語版を発行する許諾をいただきました。ContentAsia社のご協力に感謝申し上げますとともに、本資料が皆様のお役に立てることを願っております。なお、日本語版は、原文（英語）を翻訳したうえで、若干の補足説明を加えております。

一般社団法人放送コンテンツ海外展開促進機構(BEAJ)

2026年3月

マレーシア 概況

原文発行日: 2025年7月

掲載一覧

無料放送 (Free TV)

- AlHijrah Media Corporation (アル・ヒジュラ・メディア・コーポレーション)
- Media Prima (メディア・プリマ)
- myFreeview (マイ・フリービュー)
- Radio Televisyen Malaysia (RTM、マレーシア国営放送)
- Sarawak Media Group (SMG、サラワク・メディア・グループ)
- DNF Group (DNFグループ)
- Enjoy TV (エンジョイTV)

有料放送 (Subscription, pay TV)

- Astro (アストロ)
- OK Vision (オーケー・ビジョン)
- Unifi TV (ユニファイTV)

ストリーミング / オンライン (Streaming / Online)

- AlHijrah Plus (アルヒジュラ・プラス)
- Astro GO (アストロ・ゴー)
- Awesome TV (オーサムTV)
- CMGO (シーエムジーオー)
- Disney+ Hotstar (ディズニープラス・ホットスター)
- HBO Max (エイチビーオー・マックス)
- iQiyi (アイチイー)
- Netflix (ネットフリックス)
- RTMKlik (アールティーエム・クリック)
- sooka (スーカ)
- tonton (トントン)
- TVBAnywhere+ (ティービービー・エニウェア・プラス)
- Unifi PlayTV (ユニファイ・プレイTV)
- Viu (ヴィュー)
- WeTV iflix (ウィーティービー・アイフリックス)

制作会社 (Production Houses)

- Alpha47 Films (アルファ47・フィルムズ)
- Astro Shaw / Astro Studios (アストロ・ショー / アストロ・スタジオ)
- Cinema Stage Production (シネマ・ステージ・プロダクション)
- Cinemalaya Studios (シネマラヤ・スタジオ)
- Directors Think Tank (DTT) (ディレクターズ・シンクタンク)
- Dوسفellas (ドスフェラス)
- Double Vision (ダブル・ビジョン)
- Feisk Productions (フェイススク・プロダクションズ)
- Global Station (グローバル・ステーション)
- Homegrown Productions (ホームグロウン・プロダクションズ)
- Infinitus Entertainment (インフィニタス・エンターテインメント)
- Inspidea (インスピデア)
- KRU Studios (KRUスタジオ)
- Les' Copaque (レス・コパック)
- MIG Production (MIGプロダクション)
- Monsta / Animonsta Studios (モンスタ / アニモンスタ・スタジオ)
- More Entertainment (モア・エンターテインメント)
- Pencil Pictures & Records (ペンシル・ピクチャーズ&レコーズ)
- PHOSUMPRO (フォサムプロ)
- Primeworks Studios (プライムワークス・スタジオ)
- Red Communications (レッド・コミュニケーションズ)
- Revolution Media (レボリューション・メディア)
- Sha's Media (シャズ・メディア)
- Skop Productions (スコップ・プロダクションズ)
- Tinker Studio (ティンカー・スタジオ)
- WAU Animation (ワウ・アニメーション)
- Zeel Production (ジール・プロダクション)

政府・監督機関 (Government / Regulatory Agencies)

- 通信省 (Ministry of Communications)
- マレーシア通信マルチメディア委員会 (Malaysian Communications and Multimedia Commission, MCMC)
- マレーシア国立映画振興公社 (National Film Development Corporation Malaysia, FINAS)
- マレーシア・デジタル経済公社 (Malaysia Digital Economy Corporation, MDEC)

統計データ

人口	3,420万人
世帯数	830万世帯
平均世帯人数	4.1人
総テレビ保有世帯数	791.5万世帯
テレビ普及率	99%
有料テレビ加入率	77%
インターネット世帯普及率	96.4%
携帯電話利用者数	99.3%
固定電話利用者数	27.4%

出典: マレーシア統計局 (Department of Statistics Malaysia) (人口: 2022年第4四半期、世帯数・平均世帯人数: 2020年、テレビ普及率・有料テレビ・ブロードバンド・固定電話・携帯電話: 2021年、総テレビ保有世帯数: 2023年1月時点)



『Bukan Sekadar Lafaz』 ©Media Prima Malaysia

マレーシアは時折、その規模をはるかに上回る創造性を発揮し、韓国コンテンツに熱狂するこのアジア地域において、自国のストーリーテリングの質の高さを知らしめている。『エージェント・アリ (Ejen Ali)』は、まさにそのスーパーヒーローだ。長く愛されてきたこの作品は、2019年、約3,000万リンギット (726万米ドル) というマレーシアの国内映画興行収入の歴代記録を打ち立てた。2025年5月、6年ぶりに公開された続編はその記録をさらに短期間で打ち破る勢いを示し、公開後すぐに5,500万リンギット (1,300万米ドル) を突破、1ヶ月も経たない6月中旬には6,000万~7,000万リンギット (1,400~1,650万米ドル) に達する見込みとなっている。これにより、Primeworks StudiosとWAU Animationによる本作は、マレーシアにおける国内外のすべてのアニメーション映画の中で、史上最も成功した作品となった。これらのすべてが、自らの成功体験を再現しようと懸命に努力しているプレミアム・エンターテインメント業界 (映画や配信向けの高予算・高品質な作品を手がける分野) にとって、祝杯を挙げるに値する出来事となっている。

様々な理由から十分に報じられていないものの、マレーシアには活気ある制作業界が存在する。もちろん予算規模は、制作者側が望むよりは小さいが、域内の動画配信プラットフォームがこぞって買い付けるようなオリジナルIPの発信地となっている。ちなみに、それらのプラットフォームはViuを除き、現在は自社オリジナル作品の制作から一時的に一步退いている状況だ。

放送・配信アプリ業界において、マレーシアは今なお、域内外の配信事業者にとって戦略上外せない重要市場だ。これらの事業者は、プラットフォーム・アグリゲーター (複数の配信サービスを一括提供する窓口役) や通信キャリアから歓迎されており、シェアが減少傾向にあるリニア放送 (従来のテレビ放送) 分野にとっても、それは同様だ。

時価総額は約1億8,500万ドル、サービス提供世帯数は520万にのぼるAstro社は、東南アジア最大の有料放送事業者だ。同社は、国際的

な放送局やコンテンツホルダーがマレーシアへ進出する際の、国内最大の提携プラットフォームであり続けている。2025年4月末時点で、Astro社が提供するチャンネル数は計138に及ぶ (128のHD、47の自社ブランド、2つの超高解像度UHDチャンネル、および10万7,000本のVODコンテンツ)。こうした広範なラインナップと並行して、同社は長年、現地語コンテンツ (マレー語、中国語、タミル語など) への注力を経営の柱としてきた。2025年度において、Astro社は約1万1,000時間ものローカルコンテンツを制作した。同社は、こうしたローカルコンテンツへの注力と、過去5年間で24%に達したコンテンツ関連費用の削減を両立させている。

Astro社は、制作から収益化に至るあらゆる工程を連携させる統合戦略を掲げ、激変するメディア環境に対応している。この戦略には、従来のテレビ事業に加え、タレントマネジメント事業のRocketfuel、ストリーミングサービスのsooka、映画製作のAstro Shawなどが含まれる。この一気通貫のコンテンツ事業を率いるのは、2025年4月初めに最高コンテンツ責任者 (CCO) に就任したアグネス・ロザリオだ。

この統合戦略の一例が、映画『Keluang Man (クラン・マン)』だ。興行成績こそ期待を下回ったものの、本作は音楽・出版権やデジタルプラットフォームを含む大規模なクロスメディア展開 (複数の媒体をまたいだ事業展開) の一環として、IP (知的財産) の価値を高める役割を果たしている。アンワリ・アシュラフが監督したこの実写映画は、1990年代後半にカムン・イズマイル

が生み出したアニメシリーズを原作とする、マレーシアのスーパーヒーロー物語だ。ジョホール州クランをモデルにした架空の町タンポイを舞台に、精神病院の患者ポーハン（演：ナス・T）が、仮面の自警団員となって悪と戦う姿を描く。本作の製作予算は約1,300万リンギット（300万米ドル）に対し、国内興行収入は約390万リンギット（91万1,000米ドル）だったとされている。

Astro社のもう一つの取り組みが、ボーイズグループのオーディション番組『Big Stage Alpha』だ。これは、ロザリオ氏が最優先事項に掲げる「360度展開による拡散・収益化モデル」を体現する可能性を秘めたプロジェクトだ。ロザリオ氏は「単にタレントを抱えるだけでなく、彼らが成功に至るまでの道筋を提示することこそが重要なのだ」と述べている。同リアリティ番組から誕生したグループAlphaは、すでに初のオリジナル曲『Mona Lisa (Bang Bang)』をリリースし、現在はAstroで放送予定の新作ドラマに向けたオリジナル・サウンドトラックの制作に取り組んでいる。

強固な中国語圏の視聴者層を基盤に、Astro社は近年、国境を越えた提携を加速させている。その代表格が、今年（2025年7月）に撮影を終えたばかりのマレーシア・台湾共同製作映画『Sayang（サヤン）』だ。政府機関や民間団体からなるグループの支援を受け、ジン・オン（Jin Ong）がエグゼクティブ・プロデューサーを務める本作は、金馬奨受賞歴を持つドキュメンタリー監督タン・シャンチュ（湯湘竹）による初の長編劇映画となる。「マレーシアに捧げる10年越しのラブレター」と銘打たれた、注目の野心作だ。

Astro社の既存事業は、テレコム・マレーシア（TM）傘下のUnifi TV（旧HyppTV）とも緊密な関係を維持している。同社は約70のリニア放送チャンネルを提供し、複数の配信アプリをセットで展開している。

一方、上場放送大手のMedia Prima社（メディア・プリマ）は、国内最大の無料テレビ放送サービス（2025年1～3月期の視聴シェア58%）に加え、競争の激しい市場で高い適応力を見せるデジタルプラットフォームtonton（トントン）を運営している。同社は自社製マレー語コンテンツの国内最大級の供給源だ。他社の無料放送・配信サービスへの番組提供といったライセンス事業も好調で、強固な制作・販売基盤を確立している。Media Prima社の時価総額は約4億リンギット（9,500万米ド

ル）。2025年3月末までの四半期におけるコンテンツ販売収益は470万9,000リンギット（約110万米ドル）に達し、前年同期比11.4%増を記録した。（参照：無料テレビ放送&ストーリーミング）

Media Prima社の2025年のヒット作には、地元でAkasia（アカシア）と呼ばれる平日夕方の早い時間帯に放送されたドラマが名を連ねている（※注 Akasiaとは、平日夕方から夜にかけて放送されるドラマ枠の時間帯のことで、主婦層が視聴者の中心）。これらは通常、愛憎劇や人間関係を軸にした情感あふれる内容が多い。具体的な作品には、人違いによる波乱、政略結婚、自己犠牲といった定番の要素をちりばめつつ、愛と嫉妬、そして家族の誇りを描いた『Bukan Sekadar Lafaz』や、二人の男性の間で揺れ動く女性を描いたジャマル・カーン監督『Wanita Milik Kaiden』などがある。いずれも、メディア・プリマ自社のデジタルサービスtontonで配信されるほか、国内リニア放送のわずか1時間後には中国の動画配信大手iQiyi（アイチーイー）でもストーリーミング配信される。

香港に拠点を置き、PCCWとCanal+が共同所有する配信サービスViu社（ビュー）は、マレーシア製の配信ドラマにおいて、域内および国際的な配信各社を常に大きくリードしてきた。その圧倒的な優位性は、今に始まったことではない。

Viu社のマレーシア制作オリジナル作品には、2025年のタイムトラベル・ドラマ『Gadis Masa (Yesterday's You)』がある。壊れかけた結婚生活を救うために過去に戻った女性が、運命の過酷な計画に直面する物語だ。また、ウミ・サルワナ・オマール（Umi Salwana Oma）監督作品『Seribu Nina』（2022年）は、結婚を躊躇していた生真面目な新郎が、自由奔放な恋人の誘拐をきっかけにその迷いを乗り越え、彼女を救出するために奮闘する姿を描いている。

アジアで運営されているプラットフォームの中で、依然として最も透明性が高いNetflixのデータによれば、マレーシアの視聴者の嗜好は圧倒的に韓国コンテンツへ傾倒している。2025年最初の26週間（上半期）において、Netflixのマレーシア国内ランキングで首位を獲得した唯一の地元作品は、1月に2週間1位を記録したMonsta Studios制作の спинオフアニメ『BoBoiBoy Galaxy: Gentar』のみだった。米国作品は『アメリカン・

マダー：ギャビー・ペティット事件』、『ゼロ・デイ』、『Halo』が合わせて3週間、英国作品は『Adolescence』が1週間首位にとどまった。残りの20週間は、韓国作品に支配されていた。そのラインナップは、『イカゲーム (Squid Game)』シーズン2、『トラウマコード：ヒーローズ・オン・コール (The Trauma Code: Heroes on Call)』シーズン1、『おつかれさま (When Life Gives You Tangerines)』、『弱いヒーロー (Weak Hero)』、『カルマ (Karma)』、『いつかは賢いレジデント生活 (Resident Playbook)』、『弱いヒーロー Class 2 (Weak Hero: Class 2)』、『鬼宮 (The Haunted Palace)』、『隠し味にはロマンス (Tastefully Yours)』、そして『イカゲーム (Squid Game)』シーズン3。



Astroのオリジナル番組『Big Stage Alpha』から誕生した、マレーシアのボーイズグループ『Alpha』
©Astro

無料放送 (Free TV)

AlHijrah Media Corporation (アル・ヒジュラ・メディア・コーポレーション)

2009年9月、マレーシア初のイスラム系テレビサービスとして設立。2010年12月にTV AlHijrahの放送を開始した。同チャンネルは40歳未満の層をターゲットに、キッズ・ユース向け、リアリティ番組、科学・教育番組、ニュース、映画など、多岐にわたるローカルコンテンツを提供している。政府所有のAl Hijrah Media Corporationが所有・運営しており、ライブおよびオンデマンド配信を行うストリーミング・プラットフォームAlHijrah Plusも展開している。(「ストリーミング」の項目を参照)

Media Prima (メディア・プリマ)

1984年から2006年の間に設立または買収した、旗艦チャンネルのTV3、8TV、ntv7、TV9という4つの地上波無料放送チャンネルを運営している。1984年6月に設立されたTV3は、マレーシア初の民間地上波放送であり、マレー語を話す幅広い一般視聴者層をターゲットとしている。8TVは2004年1月に開局、都市部の若者や中国系視聴者(15～24歳)層をターゲットとしてローカルおよび国際的なプログラムを提供している。ntv7は、1998年4月開局し2005年にMedia Primaが買収した局で、25歳以上の都市居住者及び中国系視聴者をターゲットとし、バラエティ番組、ドラマシリーズ、映画、ニュース、スポーツ、音楽を提供している。TV9(2006年4月開局)は、リアリティ番組、エンターテインメント、ドラマ、テレビ映画、宗教番組などを通じ、15～29歳の若年層を広くターゲットにしている。同社のテレビネットワークは、2025年1月～3月期の国内放送視聴者シェアで58%を記録した。内訳として、TV3はマレー語話者4歳以上セグメントで47.7%(出典：Nielsen)、8TVは中国語話者の4歳以上の視聴者層で74%のシェアを獲得している。これは、4局合計のシェアが32.6%であった2022年1月～6月期から大幅に増加したことを示している。

myFreeview (マイ・フリービュー)

マレーシアのデジタル地上波テレビ (DTT) サービス (の名称)。デコーダーの購入と設置費用という一度限りの支払いで、テレビおよびラジオチャンネルを無料で視聴・聴取できる。マレーシア通信マルチメディア省 (KKMM、現在は通信省) から任命されたMYTV Broadcasting社が主導し、マレーシア通信マルチメディア委員会 (MCMC) が監督を務めている。myFreeviewは、マレーシアのデジタル放送移行における、無料放送の標準プラットフォームとなった。視聴可能なチャンネルには、RTMのTV1、TV2、およびメディア・プリマのTV3、ntv7、8TV、TV9などが含まれる。

Radio Televisyen Malaysia (RTM、マレーシア国营放送)

1946年4月に設立されたRTMは、マレーシアの国营(※注 原文はpublicと記載)放送局だ。同局は、TV1(ニュース/エンターテインメント)、TV2(国内番組と海外番組を8対2の割合で編成)、TV Okey(若年層向け番組)、Berita RTM(ニュース)、TV6(過去の名作番組)、およびSukan RTM(スポーツニュース)という6つの全国テレビチャンネルを運営している。また、情報通信文化省(現在は通信省)傘下の機関として、約30のラジオ局と、無料のオンラインVOD・見逃し配信プラットフォームRTMKlik(RTMクリック)も展開している。「[ストリーミング]」の項目を参照)

Sarawak Media Group (SMG、サラワク・メディア・グループ)

2020年に設立されたSarawak Media Group (SMG)は、マレーシアのサラワク州を拠点とする州営のメディア企業だ。同社の主力事業であるTVSは、2020年10月10日に開局した同州初のテレビ局だ。マレー語、英語、イバン語、中国語(北京語)を含む多言語で番組を放送している。TVSは、最新ニュース、バラエティ番組、スポーツ、サラワク州の地域コンテンツなど幅広いプログラムを提供しており、マレーシア国内および東南アジア全域の視聴者を対象としている。同チャンネルは、MYTV、Unifi TV、Astroといったプラットフォームを通じて全国で視聴可能だ。

DNF Group (DNFグループ)

2022年に設立されたDNF Group Sdn Bhd(社)は、ローカルエンターテインメント、ドラマ、バラエティ、および生活情報番組に特化した地上波無料放送チャンネルSUKE TVを運営している。ACミザル(AC Mizal、著名なタレント兼実業家)によって創設されたSUKE TVは、MYTVの116チャンネル、MyTV Mana-Mana、iQiyi、およびYouTubeで視聴可能だ。

Enjoy TV (エンジョイ TV)

2025年5月に開局したTV5 Moviesを運営している。マレーシア初となる全国規模の無料地上波デジタル放送(DTT)の映画専門チャンネルだ。多言語・多文化に

対応した家族向けの映画コンテンツを配信しており、国内人口の96%をカバーしている。

有料放送(Subscription、pay TV)

Astro (アストロ)

1996年にサービスを開始したAstro Malaysia Holdings Berhad(社)は、マレーシア最大の有料放送プラットフォームだ。加入者数は523万6,000人、リニア放送(従来型のリアルタイム放送)の視聴シェアは71%に達している(出典:Kantar Media DTAM、2025年2月~4月期データ、2025年6月報告)。世帯普及率は64%を誇り、現在はストリーミング事業へも積極的に注力している。同社のフリーミアム(基本無料・一部課金型)ストリーミング・プラットフォームsooka(スーカ)は、2026年度第1四半期(2025年2月~4月)において、総視聴時間が前年同期比109%増の3億8,400万分を記録した。また、sookaの登録ユーザー数は同65%増の310万人を超え、月間アクティブユーザー(MAU)数も同10%増の約120万人に迫る勢いを見せている。また、国内制作を一貫して重視しており、2025年6月の発表によれば、総視聴時間の82%をローカル番組や現地語(マレー語、中国語、インド系言語等)の番組が占めている。2025年6月時点で、138のチャンネルと10万7,000本のオンデマンドビデオを提供。主力受信機のU-boxには16のストリーミングアプリが統合されており、月額料金は49.99リンギット(12米ドル)からとなっている。

OK Vision (オーケー・ビジョン)

2023年12月にサービスを開始したOK Visionは、月額20リンギット(4.70米ドル)からのパッケージを提供するプリペイド式の衛星放送サービスだ。同プラットフォームは、インドネシアのMNC Digital Entertainment(MNCデジタル・エンターテインメント)とマレーシアのAnsa Broadcast(アンサ・ブロードキャスト)による合併事業として運営されている。

Unifi TV (ユニファイ TV)

Unifi TV(旧称:HyppTV)は、マレーシアの通信大手Telekom Malaysia(TM)が所有・運営するIPTVサービスだ。70以上のチャンネルと、Lionsgate Play、

Unifi playTV、Viu、iQiyiを含む8つのストリーミングアプリを提供しており、料金は月額49.90リンギット(11.80米ドル)からとなっている。Unifi TVは、インターネット、テレビ、音声通話がセットになった「トリプルプレイ・サービス」の一部として提供されている。ブロードバンド・プランの料金は、30 Mbpsのインターネット接続の89リンギット(18.75米ドル)から、800 Mbpsの299リンギット(70米ドル)まで。

ストリーミング／オンライン (Streaming／Online)

マレーシアの視聴者は、多種多様な合法のオンライン配信サービス(残念ながら違法なものも含む)を利用している。そこには豊富な南アジア系プラットフォームに加え、Netflixのような世界的な大手も名を含まれている。Netflixは、現地の有力作品を数多く買い取っているものの、現時点でマレーシア国内での自社制作は行っていない。同様に、2023年にアクション映画『Budak Flat』を公開したPrime Videoや、旧HBO Goから移行したHBO Maxも、現在は国内制作から遠ざかっている。低価格のハイブリッドモデルを展開するDisney+ Hotstarも、他社と同じく、参入初期のような熱狂はすでに過去の者となった。一方で、アジア勢は対照的に存在感を強めている。中国系のiQiyi(アイチイー)は、名プロデューサーのディネシュ・ラトナム氏(Dinesh Ratnam)が復帰したことで、現在、最も動向が注目されている。またViu(ビュー、香港系)は、外資系サービスの中で現地コンテンツの制作能力が最も強力だ。最新のストリーミングサービスは、セレスティアル・タイガー・エンターテインメント(Celestial Tiger Entertainment)が2024年8月に東南アジア全域で展開を開始したCMGOだ。マレーシアで展開されているストリーミングサービスには、主に以下のようなものがある。

AlHijrah Plus (アルヒジュラ・プラス)

国営のAlHijrah Media Corporation(社)が運営する地上波無料放送TV AlHijrahのストリーミング拡張サービス。ライブ配信およびオンデマンド・コンテンツを提供しており(一部は世界中から視聴可能)、教育や宗教(イスラム教)の色合いが強いのが特徴だ。主な

作品には、『Mai Ngaji』(コーラン学習)、『Muharam Peristiwa & Amalan Sunnah』(宗教行事・慣習解説)、『Bahagia Itu Simple』(生活啓蒙トーク)、子供向け番組の『Bangsa Thalmud & Unta』、および『Gema Hafлах』(コーラン朗読・音楽番組)がある。

Astro GO (アストロ・ゴー)

2012年に開始されたAstro GOは、Astroのモバイルおよびオンデマンド・プラットフォームだ。国内外のリニア配信チャンネル(番組表に沿ったリアルタイム配信)に加え、5万時間に及ぶオンデマンド・コンテンツのライブラリを提供している。2025年2月~4月期の月間アクティブユーザー数(MAU)は47万3,000人で、同期間の総視聴時間は70万分に達した。

Awesome TV (オーサム TV)

設立5年目を迎えるAwesome TVは、2020年に無料放送チャンネルとして開始された。当初は、MyTV(地上波プラットフォーム)やAstro(衛星放送)にチャンネルを乗せる(キャリアッジ)形で放送されていたが、その後停止されている。ニュース放送をめぐる政治的な摩擦や、デジタル地上波放送としての運用継続における数々の支障を経て、現在はオンライン・プラットフォームへと活動の場を移している。

CMGO (シーエムジーオー)

セレスティアル・タイガー・エンターテインメント(Celestial Tiger Entertainment)が運営するCMGOは、2025年8月にサービス開始1周年を迎えた。ハーマン・ヤウ(Herman Yau)監督のアクション映画『Death Notice』(2023年)や『Crisis Negotiators』(2024年)をはじめ、多種多様な中国の劇場公開作品を提供している。マレーシア国内では、Unifi TV、U Mobile、Maxis、およびタッチアンドゴーeウォレット(Touch 'n Go eWallet、マレーシアで普及している電子決済・電子マネーサービス)内のeShopを通じて視聴が可能だ。

Disney+ Hotstar (ディズニープラス・ホットスター)

ベーシック・プランの料金は、月額24.90リンギット(5.90米ドル)または年額214.90リンギット(50.60米ドル)だ。プレミアム・プランは、月額39.90リンギッ

ト (9.40米ドル) または年額289.90リンギット (68.20米ドル) となっている。

HBO Max (エイチピーオー・マックス)

2種類のサブスクリプション・プランを提供している。スタンダード・プランは月額34.90リンギット (8.20米ドル) または年額279.90リンギット (65.90米ドル) で、HD画質および2台のデバイスに対応している。最上位プランは、月額52.90リンギット (12.50米ドル) または年額424.90リンギット (100米ドル) だ。こちらはデバイス4台での同時視聴、4K UHD解像度、ドルビー・アトモス (Dolby Atmos)、および100本のダウンロードが可能となっている。

iQiyi (アイチイー)

中国の配信プラットフォームである iQiyi は、中国、韓国、アニメ、および現地制作コンテンツの組み合わせにより、マレーシアで成長を続けている。作品には『My Ofis』や、ロマンスドラマの『Rampas Cintaku』、『Senyawa』、『Sori Naik Lori』などがある。新規ユーザー向けの料金は、スタンダードVIPが月額13.90リンギット (3.30米ドル) または3か月35.90リンギット (8.50米ドル)、プレミアムVIPが月額20.90リンギット (4.90米ドル) または3か月53.90リンギット (12.70米ドル)。

Netflix (ネットフリックス)

現在のNetflixは、マレーシア国内で自社制作するよりも、現地IP (知的財産資源) の取得を優先している。作品には、東南アジア向けの初期オリジナル作品であった『彼岸の花嫁 (The Ghost Bride)』のほか、『Pulang』や『Paskal』などの有力な現地タイトルがある。Netflixは直接契約のほか、AstroのUltra BoxやUlti Boxを通じても視聴可能だ。月額料金は、モバイルプランの18.90リンギット (4.50米ドル) からとなっており、最上位プランは62.90リンギット (14.80米ドル) だ。

RTMKlik (アールティーエム・クリック)

マレーシア国営放送 (RTM) のテレビおよびラジオ放送を視聴できる無料のデジタルプラットフォームだ。TV1、TV2、TV Okey、Berita RTMといったテレビチ

ャンネルに加え、30以上のラジオサービスをライブ配信 (リニア配信) している。また、国内制作のドキュメンタリー、インディーズ映画、教育番組などの配信も行っている。

sooka (スーカ)

Astroが運営するsookaは、若年層をターゲットにしたストリーミング・プラットフォームだ。世界的な巨人 (グローバル企業) がひしめく市場において、マレーシア発のプレーヤーとして存在感を示している。1万9,000時間のオンデマンド・コンテンツと77のチャンネルを提供している。Astroグループのユアン・スミス (Euan Smith) CEOは、2025年6月に開催された年次イベントAPOSにおいて、「我々の強みは (現地の視聴者との) 関連性の深さにある」と述べた。機動力、データ駆動、顧客第一、そして手頃な価格を基本理念としており、1ユーザーあたりの月間平均視聴時間は740分に達している。スミスCEOによると、有料会員数は前年比で97%増加した。スポーツ中継、現地制作のオリジナルドラマ、エンターテインメント番組が有料会員獲得の強力な原動力となっている。柔軟な月額プランが用意されており、エンターテインメントのみのプランは月額13.90リンギット (3.30米ドル) からだ。スポーツとエンターテインメントを含むフルパッケージは月額29.60リンギット (7米ドル)。また、12.50リンギット (3米ドル) で利用可能な24時間パスも提供している。

tonton (トントン)

アジアにおいて「猫よりも多くの命を持つ (= 何度失敗しても形を変えて蘇る)」と言われるほど、幾度もの刷新を経てきたプラットフォーム。最新の形態は、これまでで最も成功していると考えられる。2025年3月末までの3か月間において、動画再生数は前年同期比で25%増加し、総視聴時間も24%増加した。2010年頃にマレーシア初の国産動画配信サービスとして誕生して以来、tontonは繰り返し再編されてきた。最新の形態は、無料の広告付き配信とプレミアム・プランを組み合わせたモデルで、ストリーミングへの不可逆な移行が進む中で (筆者が思うに) 安泰なプラットフォームだ。有料プラン「TontonUp」は、月額9.90リンギット (2.30米ドル) から利用可能。

TVBAnywhere+ (ティービービー・エニウェア・プラス)

香港の最新ドラマ、バラエティ、エンターテインメント作品を、無料配信と有料サブスクリプションを組み合わせたハイブリッド形式で提供している。VOD (ビデオ・オン・デマンド) とチャンネル・ゾーン (リアルタイム配信チャンネル) の両方を含むプレミアム・ゾーンは、月額39.90リンギット (9.40米ドル) だ。また、VODゾーンまたはチャンネル・ゾーンのいずれかを個別に購読することも可能で、料金はそれぞれ月額19.90リンギット (4.70米ドル) となっている。

Unifi PlayTV (ユニファイ・プレイ TV)

現在はUnifi TVプラットフォームに統合されているUnifi PlayTVは、多彩なリアタイム放送チャンネル (番組表に沿ったリアルタイム配信)、オンデマンド・コンテンツ、およびサードパーティ (提携他社) の配信アプリへのアクセスを継続して提供している。ユーザーは月額30リンギット (7米ドル) からの各種TVパックを選択可能だ。最上位のアルティメット・マックス・パック (Ultimate Max Pack) は月額139.90リンギット (33米ドル) で、Netflix (スタンダード・プラン) をはじめとする複数の配信サービスへのアクセス権が含まれている。

Viu (ヴィュー)

地域および国際的な配信プラットフォームの中で、現地制作 (ローカル・プロダクション) において他社をリードしており、それらを韓国・中国ドラマや多様なコンテンツと組み合わせて提供している。ビジネスモデルにはフリーミアム (基本無料で一部有料) モデルを採用。広告付きの無料視聴のほか、広告なし視聴、フルHD画質、無制限のダウンロード、および最新エピソードへの優先アクセスが可能なViuプレミアムを選択できる。現在の料金は、月額13.90リンギット (3.30米ドル)、3か月29.90リンギット (7米ドル)、6か月54.90リンギット、年額99.90リンギット (23.50米ドル) だ。2025年、Viuはオリジナル・コンテンツのラインナップを拡充した。主な作品には、ソン・ジュンギ (Song Joong-ki) とチョン・ウヒ (Chun Woo-hee) が主演し、下半期に配信予定の韓国ドラマ『マイ・ユース (My Youth)』がある。そのほか、マレーシアのロマンティック・コメディ『Gadis Masa (Yesterday's You)』、フィリピンの犯

罪ミステリー『Slay』、インドネシアの青春ドラマ『Saudade』などが追加されている。

WeTV iflix (ウィーティービー・アイフリックス)

中国ドラマ、韓国のヒット作、および現地オリジナル作品を組み合わせて提供している。特にロマンス、青春ドラマ、手軽に視聴できる形式の作品に注力しているのが特徴だ。Tencent (テンセント) の傘下に入って以降、ラインナップの拡充を進めており、人気作『2回目のロマンスはままならない! (The Love You Give Me)』や『星漢燦爛 (Love Like the Galaxy)』のほか、マレーシアのオリジナル作品『Romantika 4 Hari 3 Malam』などを配信している。多くのコンテンツを広告付きで無料視聴できるほか、有料のVIP会員は、月額10リンギット (2.60米ドル) または年額96リンギット (22.60米ドル) という非常に手頃な料金で、最新エピソードへの先行アクセスや広告なしのHD画質配信を利用できる。

制作会社 (Production Houses)

Alpha47 Films (アルファ 47・フィルムズ)

韓国ドラマのマレーシア版リメイク『Black』、ホラー映画『Pusaka』、青春ドラマ『Projek: Anchor SPM』などのプロジェクトを手掛けている。また、大ヒットシリーズのスピノフ (前日譚にあたる) 映画『Kahar : Kapla High Council』の共同制作にも携わっている。

Astro Shaw / Astro Studios (アストロ・ショー / アストロ・スタジオ)

Astro Studiosは、ライブ放送、バーチャル制作、および各種制作、ポストプロダクション (編集) 業務を専門としている。同じくAstroグループの映画製作部門であるAstro Shawは、『Polis Evo』シリーズ、『Keluang Man』、『High Council』といったヒット作を世に送り出してきた。また、マレーシア初のバトルロイヤル・ジャンル (多数の参加者が最後の一人になるまで競い合うサバイバル形式) の映画『Wantugo』が、2025年末に公開を控えている (※注 2026年6月に延期予定)。

Cinema Stage Production (シネマ・ステージ・プロダクション)

セラランゴール州に拠点を置く制作会社で、TV3のプラ

イムタイム (マレーシアでは 18:00 ~ 23:00) 向けドラマを手掛けている。ジャマル・カーン (Jamal Khan) が監督した『Jadikan Aku Bidadari (Make Me an Angel)』は、2025年1月から2月にかけてTV3のデイリー枠 Akasia (アカシア、平日夕方から夜にかけて放送されるドラマ枠の時間帯) で放送され、配信プラットフォームの tonton でも先行公開された。また、同じくジャマル・カーンが監督した『Wanita Milik Kaiden』も同社が制作している。

Cinemataya Studios (シネマラヤ・スタジオ)

アルビ・サフィアン・ロズラン (Arbi Suffian Rozlan) によって設立されたインディーズ制作会社だ。2025年の Viu オリジナル作品であるロマンティック・コメディ『Gadis Masa (Yesterday's You)』を手掛けている。シャルル・アクマル (Syarul Akmal) が原案、ユスフ・ユヌス (Yussuf Yunus) が監督を務めた本作は、不思議な力によって二度目のチャンス (人生のやり直し) を得たカップルを描いた物語だ。また、サブリ・ユヌス (Sabri Yunus) 監督による Astro Ceria と Astro Go 向けの家族向けコメディ『Kampung Puasa』(2024年) や、同じく Astro Ceria 向けの教育コメディドラマ『Geng D.U.I.T』も制作している。後者は、劣等生たちが団結して州レベルの宗教学校競技会に挑む姿を描いている。

Directors Think Tank (DTT) (ディレクターズ・シンクタンク)

クアラルンプールに本社を置き、シンガポール、インドネシア、およびマニラに拠点を展開している。

Dosfellas (ドスフェラス)

国際的な放送局やデジタルプラットフォーム向けに、ファクチュアル (事実に基づく実録番組) やエンターテインメント・コンテンツを制作している。アジア全域でヒューマンドラマに焦点を当てた (human-centered) の物語を紡ぐことで知られ、これまでにナショナル ジオグラフィック (National Geographic)、チャンネル・ニュース・アジア (Channel NewsAsia)、アルジャジーラ (Al Jazeera)、Netflix といった主要ネットワークに作品を提供してきた。最近の代表的なプロジェクトの一つに、ドキュメンタリー『A Deadly Gamble』があ

る。フィリピンにおけるオンライン・ギャンブルの闇に迫る本作は、チャンネル・ニュース・アジアで放送されたほか、現在は Netflix でも配信されている。同社の実績や最新のリリースに関する詳細は、公式ウェブサイト (dosfellas.com) を参照されたい。

Double Vision (ダブル・ビジョン)

Vision New Media (ビジョン・ニュー・メディア) 傘下の独立系制作会社だ。英 All3Media International 社の脚本フォーマット『ライアー (Liar)』や、Banijay (バニジャイ) 社の『ブリッジ (The Bridge)』といった、海外作品のマレーシア版リメイク (アダプテーション) を手掛けている。ミン・リム (Min Lim) が率いる同社は、映画制作にも携わっている。

Feisk Productions (フェイスク・プロダクションズ)

イスカンダル・アジズディン (Iskander Azizuddin) とファイサル・アジズディン (Feisal Azizuddin) の兄弟によって設立された独立系スタジオだ。Viu で公開されたホラー映画『Bilik Tepi』や、津波からの生存記録を描いたドキュメンタリー『The Tides Will Decide』を手掛けているほか、Amazon Prime Video (プライム・ビデオ) で配信されているファンタジー映画『Temenggor』、および Astro First (アストロ・ファースト) で放送された『Surya』を制作している。

Global Station (グローバル・ステーション)

Global Station は、『Alamatnya Cinta』(韓国ドラマ『フルハウス』の翻案) や『Dendam Aurora』(イタリアのドラマ『Tuscan Passion』の翻案) といったシリーズのローカル版を制作している。国際共同制作の実績として、インドネシアでの『Haryati』、オーストラリアでの『Wadi Unung』、聖地メッカ (サウジアラビア) を舞台にした『Dia Bukan Maryam』、スペインでの『Suria di Cordoba』(コルトバで撮影) などが挙げられる。2025年5月には、アイドラ・アブドゥル・ラーマン (Idora Abdul Rahman) 監督による、愛・犠牲・復讐を描いた週末ドラマ『Aku Bukan Ustazah』のシーズン2が Media Prima (メディア・プリマ) 傘下の TV3 で放送された。同作は、配信プラットフォームの tonton (トントン) において、地上波放送の24時間前から先行

配信された。

Homegrown Productions (ホームグロウン・プロダクションズ)

コメディ・リアリティ番組『Raja Lawak』(お笑い芸人発掘オーディション番組)や『Maharaja Lawak』を生み出した制作会社だ。また、歌唱オーディション番組『マレーシアン・アイドル (Malaysian Idol)』や、『One in a Million』の第1シーズンなども手掛けている。

Infinitus Entertainment (インフィニタス・エンターテインメント)

Infinitus Entertainment (Malaysia) は、香港の Infinitus Entertainment と Focus Films (フォーカス・フィルムズ) による合併会社だ。主な映画・テレビ作品には、妻に先立たれた父親が、悲しみを受け入れ、新たな愛を見出すまでを描いた物語で、iQiyi (アイチーイー) で配信された『Restu』がある。そのほか、ホラー・コメディ『Hantu Kak Limah』、アクション映画の『Sangkar』や『J Revolusi』などを手掛けている。

Inspidea (インスピデア)

2002年に設立された Inspidea は、名作『Mustang Mama』を生み出したスタジオだ。アニメーションに情熱を注ぐ創設者のアンドリュー・オオイ (Andrew Ooi) と CJ・シー (CJ See) のもと、現在も 2D アニメーション制作における第一指名とされる地位を維持している。

KRU Studios (KRU スタジオ)

1990年代にノーマン、ユスリー、エドリーのアブドゥル・ハリム (Abdul Halim) 3兄弟によって設立された。当初は音楽制作を主軸としていたが、現在は CGI (コンピュータ・グラフィックス) を駆使した作品群でその名を知られている。代表作には、マレーシア初の高予算スーパーヒーロー映画シリーズ『Cicakman』のほか、ファンタジー映画『Magika』、歴史アクション大作『Hikayat Merong Mahawangsa』といった CGI を駆使した作品がある。

Les' Copaque (レス・コパック)

Les' Copaque Production は、東南アジア全域で誰

もが知る国民的アニメシリーズ『ウピンとイピン (Upin & Ipin)』の制作元として知られる。2005年にハジ・ブルハヌディン・ムハンマド・ラジ (Haji Burhanuddin Md Radzi) とアイノン・アリフ (Ainon Ariff) によって設立され、マレーシアの文化や価値観を反映した 3D アニメーションを制作している。

MIG Production (MIG プロダクション)

2001年に設立された Metrowealth International Group (MIG) は、これまでに 155 本以上の映画と、約 1 万時間に及ぶテレビドラマを制作している。代表的な近作には、2025年5月に Media Prima (メディア・プリマ) の旗艦チャンネル TV3 および配信プラットフォーム tonton (トントン) で公開された全 28 話の平日ドラマ『Bukan Ipar Sempurna』がある。エジャンプ・モハド (Ejump Mohd) が監督を務めた同作は、結婚生活の負の側面を描いた物語だ。

Monsta / Animonsta Studios (モンスタ/アニモンスタ・スタジオ)

マレーシアのアニメーションを地域および世界市場に知らしめた、もう一つの主要スタジオだ。同社を代表する人気シリーズには、もはや説明不要の知名度を誇る『ボボーイボーイ (BoBoiBoy)』や、2022年公開の映画『メカマト (Mechamoto)』がある。後者の続編は、2026年内の公開が予定されている。

More Entertainment (モア・エンターテインメント)

主にアーティスト・マネジメントやイベント運営を手掛けるが、映画制作にも携わっている。パトリック・ソー (Patrick So) CEO 率いる同社は、マレーシアと台湾の共同制作作品『Sayang』の共同プロデューサーの一社であり、同作は 2025年7月にマレーシアでの撮影を完了した。また、2023年の犯罪映画『アバンとアディク (Abang Adik、富都青年、Brother ブラザー 富都(ブドゥ)のふたり)』にも関わっている。ジン・オン (Jin Ong) が脚本・監督を務め、mm2 エンターテインメントのメルビン・アン (Melvin Ang) がプロデュースした同作は、制作費 100 万米ドル未満で、マレーシアに住む無国籍の孤児の兄弟、アバンとアディクを描いている。その他の作品に『ミス・アンディ (Miss Andy)』や『シャト

ル・ライフ (Shuttle Life、分員人生)』がある。

Pencil Pictures & Records (ペンシル・ピクチャーズ&レコーズ)

最新プロジェクトは、Sha's Media (シャズ・メディア) との共同制作による『Bintang Di Langit Syawal』だ。バーリ・ウマル(Bahri Umar)が監督を務め、Media Prima (メディア・プリマ) のTV3向けに制作された。また、シャムスル・アクマル・アスモニ (Shamsul Akmal Asmoni) が監督を務めた『Mawar Dahlia』(2025年5月にiQiyiで配信開始)にも携わっている。本作は、幼少期に生き別れた双子の物語だ。過去の作品には、ラヒラ・アリ (Rahila Ali) 監督の長編映画『Autumn in Wales』(2022年) や、アエリル・ザフレル (Aeril Zafrel) 監督のスリラー作品『Arus Merah』(2020年) などがある。なお、ラヒラ・アリ監督は2020年の作品『Ada Apa Dengan Dosa』でも知られている。

PHOSUMPRO (フォサムプロ)

2004年にクアラルンプールで設立されたPHOSUMPROは、ブティック系(少数精鋭の専門集団)プロダクションだ。現在は、ニュージーランドのコメディドラマ『Step Dave』の中国語リメイク版が注目を集めている。All3Media International(オールスリーメディア・インターナショナル) およびAstro (アストロ) との提携により制作されたこの全10話のシリーズは、マイ・フェルナンデス (Mai Fernandez) が監督、イン・タン (Yin Tan) がプロデューサーを務め、2025年に放送される。

Primeworks Studios (プライムワークス・スタジオ)

Media Prima (メディア・プリマ) のコンテンツ制作部門。テレビ、映画、デジタル向けに年間数千時間のコンテンツを制作している。厳密にはスーパーヒーローではないが、マレーシアで最もその存在に近いとされる人気キャラクター『エージェント・アリ (Ejen Ali)』を支える主要な制作会社の一社だ。同社は強固なパートナーシップ網を誇る。Skop Productions (スコップ・プロダクションズ) との共同制作によるアクション・スリラー『Blood Brothers: Bara Naga (ブラッド・ブラザーズ: バラ・ナガ)』は2025年4月に劇場公開され、同

年8月にはNetflixでも配信された。また、WAU Animation (ワウ・アニメーション) との共同制作映画第2弾『エージェント・アリ (Ejen Ali): The Movie 2』も2025年5月に公開されている。

Red Communications (レッド・コミュニケーションズ)

1999年にリナ・タン (Lina Tan) によって設立された、クアラルンプール拠点の制作会社だ(通称Redcomm)。同社の名を一躍有名にしたのは、女性をテーマにした象徴的な番組『3R (Respect, Relax, Respond)』だ。この作品のフォーマットは、フィリピンやベトナムでも現地版が制作された。近年の実績には、Astro向けの『Riot! Rebel with a Cause』や『Puteri Qaseh』、配信サービスsooka (スーカ) のオリジナル作品『Kau vs Aku』がある。また、日本の佐賀県を舞台にし、Viu (ビュー)2シーズンにわたり配信されたドラマ『From Saga with Love』などの制作を担っている。

Revolution Media (レボリューション・メディア)

2013年にザイニル・アミヌラー (Zainir Aminullah) によって設立されたマレーシアの制作会社だ。(映画やドラマなどの) 多彩な形式やジャンルにおいて、脚本作品(スクリプト・コンテンツ)の開発・制作を行っている。同社の制作実績には、Netflix (ネットフリックス) オリジナルシリーズ『彼岸の花嫁(The Ghost Bride)』、オーストラリアABC向けの子供向けアニメ『バブルバスベイ (Sydney Sailboat)』、マレーシアのアクション映画『Tombiruo: Penunggu Rimba』、インドネシアのホラー映画『悪魔に呼ばれる前に (Sebelum Iblis Menjemput)』、犯罪シリーズ『Mandatori』などがある。さらに、BBC AmericaとNetflixで配信された実写ドラマシリーズ『私立探偵ダーク・ジェントリー (Dirk Gently)』の2シーズンにも制作で関わっている。www.revo-media.com

Sha's Media (シャズ・メディア)

最近のプロジェクトには、Media Prima (メディア・プリマ) のTV3向け作品『Baby Papa』がある。また、ソフィレア (Sophilea、マレーシアの人気恋愛小説家)

の小説を原作としたロマンスドラマシリーズ『Calon Isteri Buat Suami』も手掛けている。バーリ・ウマル (Bahri Umar) が監督を務めた同作は2025年4月に公開され、TV3での放送のほか、tonton (トントン) や iQiyi (アイチーイー) でも配信された。

Skop Productions (スコープ・プロダクションズ)

1985年にユソフ・ハスラム (Yusof Haslam) によって設立された。マレーシアで最も象徴的なマレー語のアクション映画やドラマを数多く手掛けている。代表作には、『Gerak Khas』(最も長く続いた国民的警察テレビドラマ)や、興行収入記録を塗り替えた大ヒット映画『KL Gangster』、『Abang Long Fadil』などがある。www.skopproductionsfilms.com

Tinker Studio (ティンカー・スタジオ)

クアラルンプールを拠点とする、ソーシャルメディア専門のブティック系(少数精鋭の専門集団) エージェンシーだ。SNS向けのコンテンツ制作から、長尺(短尺動画ではない通常枠) テレビ番組の制作へと事業を拡大させている。代表的な作品には、超常現象をテーマにした型破りなコメディ・トークショー『Hantu Hari Ini』(きょうのお化け、の意) などがある。

WAU Animation (ワウ・アニメーション)

2013年に設立。2016年に地上波チャンネルTV3で放送を開始し、その後大ヒットシリーズへと成長した『エージェント・アリ (Ejen Ali)』で最もよくその名を知られている。

2025年6月までに、映画第2弾『エージェント・アリ (Ejen Ali) : The Movie 2』は興行収入5,510万リングット(1,300万米ドル)を記録した。これは、ハリウッド作品を含めたマレーシアで公開された国内外のすべてのアニメーション映画の中で、歴代最高の興行収入記録となっている。

Zeel Production (ジール・プロダクション)

ファジル・テー (Fadzil Teh) 率いる Zeel Production は、マレーシア国内向けドラマ制作の拠点として知られている。代表のファジル・テー自身も『Pintu No 9』や『Matilahnak』といった作品を手掛けるクリエイター

だ。最近の主要プロジェクトには、TV3の金曜19時枠で2025年7月9日から放送された全13話のシチュエーション・コメディ『Selamat Pengantin Haru!』がある。キョル・ハムザ (Kyll Hamzah) が監督を務めた本作は、ドキュメンタリー風のコメディ(モキュメンタリー)形式を採用しており、地上波放送の24時間前に配信プラットフォーム tonton (トントン) で先行公開された。また、同じくTV3向けのドラマ『Cinta Bukan Milik Kita』も制作している。過去の作品には、ファリク・シャリフ (Faliq Sharif) が監督し、Astro Ria (アストロ・リア) で放送された2023年のテレビ映画『Pengantin Tangkap Muat』などがある。

政府・監督機関

(Government / Regulatory Agencies)

マレーシアのメディア産業に関する主な政府機関および監督機関は以下の通り。

通信省 (Ministry of Communications)

原文には、旧通信デジタル省 (the Ministry of Communications and Digital) と記載されているが、2023年12月に通信省とデジタル省に分割された。

マレーシア通信マルチメディア委員会 (Malaysian Communications and Multimedia Commission, MCMC)

マレーシア国立映画振興公社 (National Film Development Corporation Malaysia, FINAS)

マレーシア・デジタル経済公社 (Malaysia Digital Economy Corporation, MDEC)